

## 野 田 郷

上野田、下野田町をはじめ、豊地区は、昔から人が住んでいて野田郷と言われていました。

しかし、それ以前は、泥沼の底だったとも言われています。

足羽山の山頂に、杖を持って三国の方を向いて立っている男大跡王（後の継体天皇）の大きな石像があります。この王は、わたし達の住んでいる豊地区の泥沼の水も、三国の海へ流してください。た恩人だと言ひ伝えられています。

泥沼の水が三国の海へ流れるようになると、日野山から流れる川の水は、ひな川と言って岡山の西一帯を流れていたと言われます。その頃、今の上、下野田町はひな川の川底だったと考えられます。

では、いつ頃から人が住むようになってのでし

ようか。

大雨が振るたびに、ひな川の 上流から流れてきた激しい水の勢いが岡山にぶつかって弱まり、水と一緒に流れてきた土や砂が積もって、川の中に中州が生まれました。

それが野田郷の土地だと考えられます。

弥生時代（今から二千三百年ほど前）大陸から稲作の技術が入ってきて、人々は米づくりを始めたとされています。

川の水が運んで出来た土地は、大へん肥えていたので野田郷は米づくりに適していました。

野田という字を分解してみますと、

野 田  
土 田

や の田は、耕地整理をされた田んぼのことです。の土は、田と田を区切るあぜ道のことです。の予は、のんびりとした田畑のある所という意味で、野田郷は田んぼと野原の広がっている

所でした。

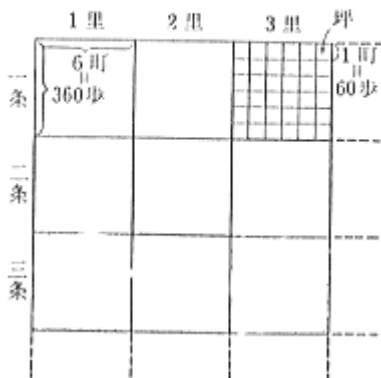
では、区画くかくされた田んぼや、あぜ道はいつ頃から出来ていたのでしょうか。

天平勝宝七年（七五五年）に越前国の田んぼ

の区画整理くかくせいりが終わっています。このことから、およそ千二百四十年前に豊地区にも、田んぼやあぜ道が出来ていたことが分かります。

当時の田んぼは条里制で一町四方じょうりせい（約百九メートル四方）の広さに碁盤ごばんの目のように、きちんとあぜ道で区切くぎられていました。

条里制（条里坪付と坪地割）



それでは、野田の地名が出てくるのは、いつ頃のことでしょうか。

まず、大化の改新たいかかいしん（六四六年）〜七〇一年）で国、郡、郷ごうが定められました。

承平五年（九三五年）に源順みなもととしむねが書いた和名類聚抄わみょうのいじぎょうに越前国丹生郡野田郷えちぜんこく にゅうぐん のうたごうが出ています。

丹生郡（九郷）

加茂 野田 丹生 岡本 泉  
從省 可知 朝津 三太

この九つの郷は、現在分かつているだけでも、南は武生市たけふ神山地区の岡本郷、北は清水町大森地区の加茂郷、福井市浅水地区の朝津郷と広い範囲にまたがっていることから、野田郷も豊地区だけでなく、もっと広範囲ひろばいだったと考えられます。

平成元年、吉川地区持明寺町の田んぼの下から平安前期（八五〇年前後）の土器どきが出てきました。この土器は、宮崎村の小曹原で焼かれたもので、土器の裏うらに野郷と書いてありました。このことから、持明寺町も野田郷だったことが分かります。

また、長禄四年（一四六〇年）四月二日付の足利義政の御教書に野田本郷が出ています。

## 御 判

越前国野田本郷千秋民部少輔事、所充一行一色七郎政瀧也者、早守先例、可致沙汰之状如件と、野田本郷を一色政瀧に宛行っています。また千秋民部少輔入道は室町幕府の奉公衆でしたから野田本郷は幕府の領所だったと考えられます。最近、下野田で土器の裏に屎麻呂と名前の書いた平安前期のものが見つかりました。へんてこな名前と思うでしょうが、昔の人にとって糞は田畑の貴重なこやし（肥料）であり、糞汲みの権利は村の権力者が持っていました。

このように、古代（平安時代）から野田郷には広々とした田畑があり、お百姓さんの住んでいたことが分かります。

昭和四十四年秋から春にかけて田んぼの構造改善が行われましたが、田んぼの底から大昔の人達

の使った土師器や須恵器の破片が沢山出ました。以上のことから野田郷は府中に近いこともあって早くから文化が開け、大切な穀倉地帯（米など穀物がとれる所）であつたことが分かります。

その他に、平安中期にあつた岡寺は、下野田ではないかと県埋蔵文化センター所長の青木豊昭先生は推定されます。下野田町には、中岡を中心に、東岡、西岡、南岡、北野岡、將軍岡の字名が残っているからです。

また、上野田町には、宮之久保、東宮之久保という字名のあるところから、平安時代にあつた神社は、後に日吉神社と社名を変更したものと考えられます。

このように野田には大昔から岡寺とお宮がありその中ほどに市場（豊小学校の敷地）という字名や、川着き（南岡の西側一帯）という字名が残っていることから、三国と野田郷には船便があつて市場も立ち、大そう、にぎわつたのではないかと

想像うやうやされます。

また、上氏家の前岡や、西大井の遺跡いせきから縄文式時代じゅうもんしきのものが出土しゅつたうしていることから、野田郷は古くから人が住み、平安時代には府中（武生市）に近いこともあつて相当文化そうとうぶんかが開けていたと考えられますが、その中心は一番石高いちばんいしかか（米のとれる量）の多い幕府まくふの奉公衆ほうこうしゆうの住んでいた下野田あした辺りだろつと考えられます。

#### 注 土師器はじき

弥生式土器やまひしきどき（紀元前三〇〇年ごろから、後三〇〇年ごろにわたつて発達した土器）の系統けいとうをひく古墳時代こふんおよび、それ以降いこうの素焼すやきの土器。黄色で細密さいみつな質しつの埴土はにちち（粘土ねんど）で作り、素焼にしたもので赤褐色せきしやくをしている。坏くわい（さら）・高坏たか・壺つぼ・小型丸底壺けいしゆりちつち・こしきなどがあるが、須恵器すえきの発達にともない実用じつりようの器うつわとしてはおとろえたが、祭祀用さいしりよう（神を祭るときに使つ器）として続いた。

#### 注 須恵器すえき

日本古代にっぽんこくたいの土器どきの一種しゆ。登りがまで還元炎かんげんえんで焼かれた堅い質かたいしつのもので、灰色はいや暗い青色くらあおなどをなしている。

種類しゆるいは坏くわい・高坏たか・壺つぼ・提瓶ていべい（さげべ）はそう・横瓮よこせなどがあり、奈良時代ならや平安時代へいあんにもおよび、その後も伝統でんとうが伝えられた。

#### 注 縄文式時代じゅうもんしき

なわ目なわめのもようがほどこされた土器どきが作られたり、使われた時代じだいを縄文式時代じゅうもんしきと言つ。縄文式時代じゅうもんしきに作られた縄文式土器じゅうもんしきどきは日本で最も古い土器。

#### 【参考資料】

我が校の郷土教育（鯖江女子師範学校）  
福井県の地名

（日本歴史地名大系第18巻平凡社）

福井県史資料編第十六巻下（条里復元図 72）

現代新百科事典（学習研究社）

